

平成22年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

(1) 学習活動

- ・研究授業や互見授業などを通して、教科指導力の向上に努めた。また、授業検討会を実施して教育過程や学習指導の改善について検討した。
- ・アンケート調査を実施し、生徒の実態を通して生徒理解を深めた。そして、学習意欲を喚起し、よりわかる授業を目指す教科指導法の研究に努めた。
- ・資格取得を目指す検定試験の結果を分析して、指導法や評価法に反映した。

(2) 学校生活

- ・一人あたりの年間遅刻回数(2.3)は前年とほぼ同じ回数であった。学期間に5回以上の遅刻者が常習化する傾向にある。8回以上の遅刻者には、保護者同席で生活習慣の改善を検討した。
- ・服装指導は年間計画に沿って実施した。再登校指導を促す生徒には、保護者との連携を密にして今後も継続して取り組む。
- ・春と秋の「さわやか運動」期間を中心に、月初めの玄関前指導などで生徒会と協力して、あいさつ運動や服装指導を実施した。あいさつは少しずつ定着しつつある。
- ・各種講話（交通安全教室、たばこ・薬物の害、性教育、着こなしセミナー、ケータイ安全教室など）を通して、規範意識の向上に努めた。

(3) 進路支援

- ・3年生全員と保護者を対象に進路ガイダンス（15講座）を実施した。生徒満足度は95.5%であった。30分2講座の設定が効果的だった。
- ・1学年は学校施設企業見学、2学年は関西進路研修、3学年（就職希望者）は企業見学を実施し、進学意識や職業意識を高めた。また、3学年（進学希望者）には学校説明会やオープンキャンパスへの積極的参加により、志望校への理解を深めさせた。
第1志望の合格率（満足度）は89.5%（2/2 現在）である。

7 次年度に向けての課題と方策

(1) 学習活動

- ・新教育課程の編成に向け、学習指導委員会を中心にして、新教育課程の編成作業を行う。
- ・学習意欲を高めるとともに、基礎学力を定着させる指導法の研究や教材の開発に努める。
- ・生活学習実態調査を継続して行い、生徒理解を深めるとともに、指導力の充実に努める。

(2) 学校生活

- ・保護者の理解と協力を得ながら、基本的な生活習慣を身につけさせる。
- ・制服の正しい着こなしを定着させることができるように抜本的な服装指導を検討する。
- ・スクールカウンセラーの常駐を要求するとともに、スクールカウンセラーと連携した指導を行う。

(3) 進路支援

- ・生徒が必要とする情報をいろいろな形で提供し、生徒の主体的な進路学習を支援していく。
- ・進路ガイダンスや進路体験講座などを通して、生徒が進路目標を達成できる対策を自ら考える態度を身につけさせる。
- ・進路指導部、学年、教科間の連携を強化し、生徒個々の実態と情報を共有して、効果的な指導が行えるように努める。

(4) 特別活動

- ・今年度の検討課題をもとに平成23年度の重点課題を設定する。

平成22年度 上市高等学校アクションプラン 年度末評価 - 1 -	
① 重点項目	学習活動
② 重点課題	教科指導の充実
③ 現 状	<ul style="list-style-type: none"> 各教科で学習指導法や評価の仕方等を記載したシラバスを生徒に配布している。しかし、生徒は科目選択の資料として利用しているものの、学習の指針として十分に活用するに至っていない。 授業検討会を適宜実施して、生活実態調査結果の分析などを通して、生徒理解を深めるとともに、教科の指導法や評価法等を研究している。
④ 達成目標	各教科担当者による授業検討会（互見授業などを含む）の実施 ※各学期の回数
	具体的には、各教科で学期に2回（3学期は1回）以上の実施
⑤ 方 策	<ul style="list-style-type: none"> 教科指導力の改善を目指す授業検討会を開き、効果的な指導法や生徒の学習成果を測る評価法を研究する。（継続） 新カリキュラムの編成に向けて、教科、科目の指導法を研究する。 教科指導はシラバスに基づき実施する。その際に、授業と家庭学習の内容を明確に位置づける。 授業に対する生徒アンケートを分析して、教科指導法の工夫に役立てる。
⑥ 達成度	概ね良好である。
⑦ 具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の授業検討会実施日 国語（4/15、5/17、6/23、9/17、10/22） 地歴公民（4/23、6/11、8/23、9/16、10/1、10/22、12/1、12/3） 数学（4/1、4/21、5/14、5/28、6/22、10/4、11/1、12/14） 理科（4/28、6/23、9/9、9/29） 保体（4/1、4/9、11/15、12/14） 芸術（5/26、11/15、11/16） 英語（4/1、4/26、5/22、6/7、6/23、9/27、11/4、11/10） 家庭（4/1、4/28、5/12、6/21、6/23、9/6、9/29、12/8、12/14） 農業（6/21、6/23、11/1、12/1） 商業（6/10、9/26、11/28） 検討された内容 全教科共通： 年間指導計画、授業進捗の確認、シラバス、分野の問題点 H23、24、25年度の教育課程検討、次年度の教科書採択 等 個別教科： 読書感想文指導法、評価法、文章表現力の向上（国語）、法教育シンポジウムに向けた研究授業の実施について（地歴・公民） 課題研究について（地歴公民）合同授業の内容と課題（家庭） H24年度教育課程先行実施の問題点について（数学、理科）、互見授業と指導法・評価検討（芸術）、マラソンの指導法（保体） 資格取得の取組み（農業、商業）、検定結果の分析（商業） ☆初任者研究授業（英語・音楽）および事後研修の実施（各2回）
⑧ 評 価	B 各教科とも、授業検討会を行い、教科指導の充実に努めている。初任者研究授業および事後研修会は該当教員だけでなく、他の教員にも良い刺激を与えた。
⑨ 学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の声を聞くことを大切にしてほしい。 総合学科なので、まずアンケートを実施することが大切。 生徒のことを理解しようとしている。互見授業も多く実施している。 評価がBとなっているが、Aと考えてもよいのではないか。 各種の資格取得について、継続してがんばってほしい。 新聞の「ヤングコーナー」など外に発信しているのがよい。
⑩ 次年度以降に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に基づき、かつ本校の教育目標、生徒の実態等を踏まえて、H24、H25年度の新教育課程編成に取り組む。 授業検討会の充実を図る。基礎学力の定着をはかる具体的な方策や互見授業等による指導法の研究を積極的に進めていく。 生活実態調査の分析や教員間の情報交換を通して生徒理解を深め、指導に生かす。 生徒に達成感を与え、評価につながる適切な課題を工夫をすることにより、家庭での学習習慣を身につけさせ、課題を確実に提出させる。

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状のまま D：後退した）

平成22年度 上市高等学校アクションプラン 年度末評価 - 2 -	
① 重点項目	学校生活
② 重点課題	基本的な生活習慣の確立。学校生活および社会生活への適応を図る。
③ 現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・「遅刻をしない」「身なりを正す」「マナーに気をつけ、みんなで元気にあいさつ」を指導重点として規律と秩序ある校風作りを進めている。 ・基本的な生活習慣が身につけていない生徒、規範意識の低い生徒、地域社会で配慮を欠いた行動をする生徒が一部に見られるが、保護者の理解、協力を得て問題解決を図っている。 ・平成21年度の生徒1人あたりの年間遅刻平均回数は2.5回であり、ここ3年はほぼ横ばいの傾向にある（H20年度2.3回 H19年度2.5回）。 ・合計数は1,000回を超えており、継続した指導が必要である。
④ 達成目標	① 年間一人あたり遅刻回数の減少
	② 全校一斉服装指導を実施し、身なりを正す意識を高める。
	前年比20%の減少
	年8回の実施回数
⑤ 方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻の多い生徒に対して学年、指導部が連携して問題状況の把握と問題解決に努める。 ・生徒自身の自覚を促し、また保護者の理解と協力を得て、問題解決を図る。 ・全教職員の共通理解を図りながら一致した指導を心がける。（全校集会時にも身だしなみの指導を行う） ・生徒自身が身だしなみについて考える機会をつくり、自ら正す気持ちを育てる。 ・さわやか委員会、部キャプテン会議の委員による呼びかけにより生徒自らが、マナーや規範意識を高めようとする主体的な活動を支援する。
⑥ 達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> ・1月末までの遅刻総数は1070回（前年同期は1048回）で、一人あたりの年間遅刻平均回数は2.3回（前年2.3回）とほぼ同じ回数であった。1月については、降雪のために、全体で132回で例年より多かった。 ・学年別に見ると、1年生190回、2年生509回、3年生371回と、昨年度に遅刻の多かった学年がそのまま進級した状態になっている。1学期間に5回以上の遅刻をし、特別な指導を受けた生徒が繰り返し遅刻をしてしまう傾向にある。 ・服装頭髪指導を計画通り実施した。期限までに直さない生徒については、保護者の理解、協力の下で再登校指導を行った。毎回ほぼ同じ生徒が再登校指導を受ける傾向がある。 ・月ごとの改善目標を具体的に生徒に示すことができなかった。
⑦ 具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> ① 遅刻を繰り返す生徒には、担任や学年が中心となり、指導にあたった。連絡もなく定刻に学校に登校していない生徒には、保護者に連絡をして、所在の確認を行った。特に、学期に8回以上遅刻を繰り返す生徒に対しては、保護者を交えて、基本的な生活習慣の見直しを考えさせ、担任や保護者の前で約束をさせた。 ② 服装指導においては、保護者の共通理解の元で指導を進めた。また、登校時、朝のショートタイム、授業や集会の開始時ごとに、服装を直し、望ましい姿勢、態度で臨むように指導した。頭髪指導については保護者と連絡を取りながら、細かい指導を行った。 ③ 春・秋の「さわやか運動」の期間だけでなく、月の初めに玄関前指導などでも生徒会と協力してあいさつ運動や、服装指導を行った。 ④ 交通安全教室、たばこ・薬物の害、性教育、着こなし教室、ケータイ安全教室などの講話を通して、規範意識を高めるように指導した。
⑧ 評 価	C
⑨ 学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校を見る限り、ここ数年の中では服装が比較的好くなってきているのではないかと。 ・入学試験や就職試験でも遅れてくる生徒がいる時代であるが、遅刻指導は継続して行っていくしかないのではないかと。 ・課題研究発表会では、挨拶すると大半の生徒が元気に挨拶を返してくれた。
⑩ 次年度以降に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻に関しては、保護者の協力をさらに求め、基本的な生活習慣の確立に向けて指導を続ける。心の問題を抱えている生徒の生活習慣の乱れが問題となっているが、スクールカウンセラーの常駐を要求するとともに、連携して指導を行っていく。 ・生徒会と協力をし、あいさつ運動を続けていく。 ・着こなしの悪さが不審者被害の多さの原因の一つとなっていることをふまえ、抜本的な服装指導を考えていく。

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状のまま D: 後退した)

平成22年度 上市高等学校アクションプラン 年度末評価		— 3 —
① 重点項目	進路支援	
② 重点課題	生徒の主体性を引き出すための情報提供と進路指導	
③ 現 状	<ul style="list-style-type: none"> 進路を決めかねている生徒、明確な進路目標は持つが、自主的な学習行動に至らない生徒が見られる。 授業、施設見学、進路体験講座など多くの進路学習が行われているが、生徒は受動的であり、個々の活動を系統的に生かし、進路意識を高めていくことが苦手である。 	
④ 達成目標	①進路体験講座などキャリア教育が進路意識の向上に役立ったと感じた生徒の割合	②第一志望の合格率（満足度） *出願時(進学、就職)の第一志望を対象とする
	80%以上	85%以上
⑤ 方 策	<ul style="list-style-type: none"> 進路体験講座などで上級学校の講義に触れさせ、将来の姿をイメージさせる。 オープンキャンパスへの参加率を高め志望校への理解を深めるとともに具体的な学習計画の実行を促す。 1年では「施設企業見学」を通して上級学校の雰囲気に触れさせ、進路に対する視野を広げるとともに、意識を高める。 2年では「県外進路研修」や「インターンシップ」「卒業生に聴く会」を通して上級学校や職場の雰囲気に触れ、自己理解に基づく正しい職業意識を高める。 入試動向や過去問の研究を深める。 特別授業や補習を行い、学力を充実させる。 	
⑥ 達成度	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンス(5月実施)満足度95.5% 〔内訳〕とても参考になった……66.4% やや参考になった……29.1% 進路体験講座(7月、12月実施)満足度84.3% 〔内訳〕参加してとても良かった…46.8% 参加して良かった……37.5% 	<ul style="list-style-type: none"> 89.5%(2月2日現在の進路決定者の内) 〔内訳〕進学者…91.6% 就職者…82.8% (注)今年度、就職試験で一部企業に求職者が集中したことから高倍率となり、第1希望でない企業に変更せざるを得ない生徒が多かったため、就職者の満足度が低くなった。
	⑦ 具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 進路ガイダンスの実施…3年全員とその保護者を対象に実施。 県内及び近県の大学、短大、専門学校の講師を招聘し、15講座を開設(前年度13講座)。また、30分2講座を設定(前年度50分1講座)。学校の特色や学習内容、入試方法について複数校の説明を聞く機会を設定した。また、就職希望生徒に対して働くことの意義や求められる人間像、職業適性についての就職講座を開設し理解を深める機会を設けた。 進路体験講座の実施…全学年希望生徒対象に実施。延べ185名参加。()は各講座参加生徒数 大学から講師を招聘して7月に「現代中国学入門」(12)、「小論文入門」(60)、「生物学入門」(25)を、12月には「誰でもできる運動遊び」(28)、「ロボットのしくみ」(33)、「外国語入門」(27)を実施。 学校施設企業見学…1年全、関西進路研修…2年全、企業見学…3年就職希望生徒 1年生は県内の上級学校や企業を見学、2年生は2泊3日で企業見学や上級学校等を見学、3年就職希望生徒対象に企業見学を実施し、進学意識や職業意識を高める学習を実施。また、3年進学希望生徒に対して学校説明会やオープンキャンパスなどへの参加を促し、志望校への理解を深めるよう指導(最低1校参加、多い生徒は5校参加)。2年インターンシップ(18名参加)。3月に2年全生徒対象に「卒業生に聴く会」を実施(大学・短大・専門・就職した卒業生20名参加)。 放課後や長期休業期間中に希望者補習や特別授業を実施。また、1・2年生徒対象に、3月特別時間割にて分野別時間割を一部取り入れ、今年度の総復習及び次年度に向けての事前学習や学力向上を図る予定。
⑧ 評 価	B	B
⑨ 学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> 多様な進路希望によく対応している。 地域を通して違ったものさしで生徒が体験する活動があってもよいのではないかと。 今後もインターンシップなど体験的取り組みを継続してほしい。 生徒の夢を引き出すことと、働き続けることの意義を理解させる指導もさらに充実させてほしい。 	
⑩ 次年度以降に向けての課題	<p>学校側から様々な形態で情報提供をしたり、外部業者が主催する学校ガイダンスへの参加を促したりして上級学校を理解する機会を提供している。しかし、積極的に情報を収集し目標達成の対策を考える生徒は一部に固定化していることから、より生徒自ら主体的に考えて活動し、目標達成のために必要な学習を積み重ねる態度が育成されるよう支援する必要がある。また、昨今の就職状況を踏まえ、就職を念頭に置いた進路決定が行えるようキャリア教育の充実を図る必要がある。</p>	

(評価基準 A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状のまま D : 後退した)

平成22年度 学校教育計画の評価

項目	実施項目に対する評価	次年度の課題	次年度の方策
(1)校務運営	<p>①各部・教科・学年間の情報の共有化。 ・職員会議や部長会議などの協議をもとに、各種の情報や問題点の共通理解と共有化を図った。</p> <p>②教職員の意欲的な参画意識の醸成。 ・常に報告、連絡、相談の姿勢を忘れず、分掌間の調整と協力体制を保ちながら教育活動が行われた。</p>	<p>・本校が抱える課題や問題点を解明する。</p> <p>・目指すべき生徒像の明確化と指導の重点化を図る。</p> <p>・分掌間の効果的な連携のあり方を目指す。</p>	<p>・本校の目指すべき方向性について共通理解を図り、重点項目を策定する。</p> <p>・わかりやすい構造図を示しながら、教育活動への意欲的な取り組みを推進する。</p>
(2)教育課程	<p>①教育課程の編成 ・6回の学習指導委員会を実施し、H23年度の教育課程の編成や運用を協議した。 ・新学習指導要領(H24年度数学、理科の先行実施、H25完全実施)に向け、現行の教育課程の問題点、見直すべき点を確認するとともに、新課程に関する情報提供を行い、主に各教科内で理解を深めた。</p> <p>②科目選択のしおり(シラバス)の作成 ・1年次生の科目選択説明会(保護者・生徒)を実施した。出席保護者数120名。</p>	<p>・新学習指導要領による新教育課程H24、H25の具体化。</p> <p>・分野、科目選択が円滑に行われるように、「産社」、科目説明会、面接等の充実。</p>	<p>・学習指導委員会を中心に新教育課程の検討。各分野の目標に合ったものになっているかを重視する。</p> <p>・進路実現に向け、適切な科目選択ができるよう、学年、担任だけでなく、各教科、分野から積極的に助言を行う。</p>
(3)教科指導 重点1	<p>①指導内容の充実と指導方法の改善について<詳細はアクションプラン参照></p> <p>②基礎学力の定着について ・科目選択のしおりを作成して、学習方法や指導計画を示したが、生徒に十分浸透していない。</p>	<p>・指導内容の充実と指導方法の改善について<詳細はアクションプラン参照></p> <p>・どのようにして家庭学習習慣を定着させるか。</p>	<p>・授業検討会を充実させるように努力する。</p> <p>・生徒の実態に合わせてより分かりやすい内容のシラバスを検討する。</p> <p>・課題の提出率を高めるようにする。</p>
(4)生徒指導 重点2	<p>①遅刻指導について<詳細はアクションプラン参照> ・遅刻防止の呼びかけ、保護者との連携をとるとともに、繰り返す生徒については特別指導を行った。ただし、遅刻総数は前年度に比べ増加。</p> <p>②服装指導について<詳細はアクションプラン参照> ・年8回の実施。その期間、その場の指導には従うものの、日常の服装の乱れは改善されず。</p>	<p>①遅刻指導について<詳細はアクションプラン参照> ・遅刻総数を減らすための継続した指導が必要。</p> <p>②服装指導について<詳細はアクションプラン参照> ・頭髪・服装指導期間だけでなく、日常における指導をどのように行っていくか。 ・落ち着いて学習活動に取り組む環境整備。(安全、安心)</p>	<p>・「さわやか運動」の期間だけでなく、日頃から生徒会と連携し、服装、マナーの改善を働きかける。</p> <p>・月ごとの改善目標を設定し、生徒に示すことで指導方針を明確にし、学校全体で取り組むようにする。</p>
(5)特別活動	<p>①生徒会活動を通して、生徒自身が規格・立案を行うことにより、円滑な活動(体育大会・文化活動発表会等)が実施された。</p> <p>②校舎内・外の美化活動においては、厚生部及び美化委員と協力し、徐々に浸透している。</p>	<p>①各行事における生徒の意識付けを高める。</p> <p>②地域への広報活動を推進する。</p> <p>③身だしなみ(頭髪・服装等)について、生徒自から自主的に呼びかける。</p>	<p>①各行事の活性化を図り各委員会との連携を密にする。</p> <p>②ボランティア活動の推進を図る。</p> <p>③生徒指導部との連携を密にする。</p>
(6)進路指導 重点3	<p>①進路ガイダンスや進路体験講座の企画・実施について<詳細はアクションプラン参照></p> <p>②学年・教科が中心となり、放課後や長期休業中に希望者補習を実施した。 また、連休があれば課題を出すなど、個々の生徒に対応した基礎学力の定着や資格の獲得を図った。意欲的な生徒もいるが、自主性の育成には至っていない。</p>	<p>①進路ガイダンスや進路体験講座の企画・実施について<詳細はアクションプラン参照></p> <p>②生徒は学習目的や継続的学習の必要性を理解できていない。 生徒の実態に即した課題の内容と分量について苦慮している。</p>	<p>①進路ガイダンスや進路体験講座の企画・実施について<詳細はアクションプラン参照></p> <p>②学年・担任・教科など、教員が連携を強化し、生徒個々の実態と到達目標や指導過程について情報を共有し、具体的な助言方法を考える。</p>

項 目	実施項目に対する評価	次年度の課題	次年度の方策
(7)保健美化	<p>①定期健康診断・各種検診は、各学年の協力もあり、スムーズに行うことができた。</p> <p>②定期的な保健通信の発行や来室時には個々に応じた対応をし、自分の健康や体調に関心を持たせるように努めたが、生徒の反応は変わらない。</p> <p>③整備美化 校舎内外の環境美化のために、特別清掃や美化週間を設定し、美化委員による美化ポスターの掲示や落書き消し、部室横の溝掃除などを実施した。</p>	<p>①定期健康診断等を受診する意義を理解していない生徒が多い。</p> <p>②集団指導と個別指導の実践、指導方法の工夫。</p> <p>③整備美化 美化委員の活動により成果がみられるものの、他の生徒の美化意識を高めるための方策を検討する必要がある。</p>	<p>①事前指導を確実に行うとともに、必要な生徒への個別指導を行う。</p> <p>②生徒から生徒への指導効果をねらい、保健委員会活動を推進する。また“体調不良は学びのチャンス”とし、来室時を生かす。</p> <p>③整備美化 美化委員の活動を積極的に推進しながら、他の生徒の美化意識の高揚に繋がるような活動を実施する。</p>
(8)図書指導	<p>①「朝の読書」は定着しているが、学年やクラスによって温度差がある。クラス文庫の利用も初めは順調だったが、次第に鈍化した。</p> <p>②図書館オリエンテーション、課題研究での読書指導、個別指導などを行った。図書館利用度は例年並みであった。</p> <p>③行事への取り組みを通して、自主的な行動ができる委員がでてきた。全員参加で「三杉No.50」を発行した。</p>	<p>①「朝読」に対する共通理解を図るとともに、さらなる充実に向けて対策を検討する。</p> <p>②全体への利用指導とともに個人指導を充実させる。</p> <p>③委員の活動を意識づけることで、自主性の育成を促す。</p>	<p>①読書活動を活性化させるため、新刊本情報などを充実させる。</p> <p>②ひらかれた図書館を目指し、個々の関心に応じた読書指導を行い、レファレンスの充実を図る。</p> <p>③自主的に委員会活動を行えるよう適切な指導に努める。</p>
(9)情 報	<p>①PC室更新に伴ってネットワーク構成を変更した。老朽化した情報スイッチを交換しネットワークの維持管理を図り、ネットワーク上のトラブルは発生しなかった。情報の運用は、情報管理運用規定・教職員公務用PCに関する運用規定を遵守し、情報の流出等の問題は生じなかった。</p> <p>②校内各部・科から各種データ提供等の協力を得てHPの更新を随時行い、本校を現況を紹介する情報の発信を行った。</p>	<p>①生徒に対してセキュリティやモラルの意識を高める。引き続き効果的なセキュリティ対策実施により情報漏洩等の脅威に備える。</p> <p>②迅速なHPの更新を心がけ効果的な情報発信を行う。本校への理解を深めるためのHPによる情報発信の方策を検討する。</p>	<p>①生徒に対してコンピュータとネットワーク利用に規範意識を高める。効果的なフィルタリングやウイルスプロテクト等のセキュリティ対策により、トラブルの未然防止に努める。</p> <p>②校内の各部・科との連携を深め、HPの効率的な更新に努め、魅力的なHPデザインを検討する。</p>
(10)教育相談	<p>①生徒の様々な悩みを幅広く受け止められるよう、普段から生徒の動向に注意し、保健室や学年との連携を図った。</p> <p>学年主任や生徒指導部長との情報交換会を学期ごとに実施した。</p> <p>②相談室だよりを通して生徒自身が問題解決能力を高める手だてを工夫した。</p> <p>③生徒の悩み解消に、より多くの機会を持たせるため、臨床心理士による相談会の回数を増やした。臨床心理士との連携を図り、連絡を密にした。</p>	<p>①保健室・相談部・学年とのより一層の連携を図り、スピード感のある対応が求められる。</p> <p>②生徒が読みたくなるような、魅力的な相談室だより作成が求められる。</p> <p>③臨床心理士による個別相談会の回数を増やすことで緊急性のある悩み相談に対応する。</p>	<p>①一人一人に合った指導方法を、学校関係者間で十分検討し、連携を図った上で方向性を見出す。</p> <p>②生徒自身が問題解決能力を高め、人間関係作りに役立つ内容を考える。</p> <p>③臨床心理士と、学校関係者間の連携を密にし、専門的な対処法を踏まえた上で生徒の悩み解決の手だてを模索する。</p>

項目	実施項目に対する評価	次年度の課題	次年度の方策	
(11) 学年	1 学年	<p>①教員は授業前に教室へ行き、チャイム着席の徹底がほぼできたが、特に2学期以降、生徒に授業遅刻等がみられた。</p> <p>②面談回数を増やし、生徒個々の生活の様子が把握できた。また、個々に応じた学習方法や、生活改善のための指導ができた。</p>	<p>①生活の乱れ等による遅刻がまだ、かなり見られるので指導が必要。</p> <p>②進路について具体的に考えていない生徒が多く、面談等を通して、考えさせることが必要。</p>	<p>①保護者との連絡をさらに密にし、健全な生活習慣の確立に努める。</p> <p>②自主的に家庭学習が習慣としてできるように工夫し面談等を交え積極的に指導していく。</p>
	2 学年	<p>①県外進路研修、インターンシップ、オープンキャンパスなど学校外での研修の機会を多く持つように指導した。事前指導で目的意識を高め、事後学習を通して進路について深く考えるように指導し、進路意識が徐々に高まってきた。</p> <p>②HR、県外進路研修、体育大会などの学校行事を通して集団の中の自分を認識するように指導した。集合時間の厳守や発言内容など責任ある行動が多く見られるようになってきた。</p> <p>③進学補習・添削指導や就職模試など、進路に応じて基礎学力の向上のための指導を行ったが、家庭学習の充実・学力の向上にまだ結びついていない生徒が多い。</p>	<p>①意欲に乏しい生徒達でもオープンキャンパスや企業見学など積極的に諸活動へ参加するよう指導を工夫する。</p> <p>②自分の言動に責任を持ち相手を思いやる心を育てる。場に応じた、はじめのある行動ができるよう規範意識を高める。</p> <p>③自主的、かつ計画的な学習習慣の定着をはかり各自の進路実現を目指す。</p>	<p>①きめ細かい面談を通して本人の興味や適性を確認し家庭との緊密な連絡・家庭内での話し合いにより、進路決定へ向けての自覚を促す。</p> <p>②最上級学年としての自覚や、集団の一員としての責任を持たせるよう指導する。</p> <p>③できる限り早い時期に進路希望先を決定する事で、目標を具体化させ、学習意欲の高揚を図る。</p>
	3 学年	<p>①進路の目標を学習の動機とし、着実に成果を上げる生徒もあったが、全体的な学習意識向上には至らなかった。</p> <p>②遅刻・欠席が多い生徒には、本人と共に保護者にも繰り返し指導を行ったが、なかなか改善しない生徒もいた。</p> <p>③体育大会、部活などの貴重な活躍の場で指導的立場を経験し、相互理解や問題への解決過程から、社会性を学ぶことができた。</p>	/	/
(12) 地域との連携	<p>①高校生さわやか運動」は、活動期間が考査や創立記念式典と重なり、PTA会員の参加はあまり多くなかった。</p> <p>②「PTA保健講座」では、PTA会員と教職員、生徒が協力して活動しあえる場として定着してきた。</p> <p>③創立記念式典行事等には、多くの参加者があった。</p>	<p>①PTA行事等にもっと参加しやすい環境作りを目指す。</p> <p>②PTA行事に対する会員の理解を深めるとともに、より会員のニーズに合った活動を目指していく。</p>	<p>①他の部と連携し、身近な問題を取り上げてアンケートを実施する。</p> <p>②PTA役員からの働きかけや、広報活動を地道に積み上げていく。</p> <p>③事前・事後学習の充実と受け入れ体制の工夫を一層図る。</p>	